

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372500484		
法人名	社会福祉法人 恩賜財団 愛知県同胞援護会		
事業所名	グループホーム春緑苑 第1		
所在地	愛知県 春日井市 廻間町 703番地1		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2372500484-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画書は変化があれば随時変更している ・お風呂は毎日実施しており、清潔保持に努めている ・入居者の『できること・できないこと』を把握するためシートを活用し、できることはいつまでも継続できるよう支援している ・常時ケアが必要になった場合はバックアップ施設である同法人の特別養護老人ホームへ転居し継続してケアを受ける事ができることが強みである ・地域への行事参加には積極的で交流の機会が多い
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームでは、利用者に日常生活を楽しんでもらうように様々な行事が行われており、利用者が活動的に生活できるような取り組みが行われている。食事を楽しんでもらうように、定期的に行事食の取り組みや季節に合わせた食事の提供が行われている。毎日2回、調理に使用する食材を関連の特養まで取りに出かける取り組みについては、季節に関係なく行われていることで、利用者の日常的な外出につながっている。関連の特養やケアハウスとも連携しながら、年間を通じて行事が行われており、その際には、ホームからも利用者が参加して交流が行われている。また、定期的に行われている運営推進会議の際には、複数の地域の方の参加が得られていることで、地域に関する情報交換の機会にもつながっている。家族とも行事の際には、多くの方の参加が得られており、交流の機会につながっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念を玄関、事務所に掲示している ・理念を共有するため、個々のケアプランに沿ってミーティングやカンファレンスで話し合いをしている 	法人理念に基づくホーム独自の理念が開設時につくられており、ホーム内への掲示が行われている。また、職員間で理念に関する振り返りをはじめ、毎年度の目標を立てる取り組みも行われており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回行事(開設記念祭、夏祭り、運動会)があり、地域の方にも参加いただき交流できている ・地域の夏祭りや行事にも参加する事が出来ている 	地域の方との交流については、関連事業所と合同で行われており、法人で開催した記念祭等の行事には多くの方の参加が得られている。また、ホームでも近隣にある警察学校との交流等、独自の交流が行われている。	ホームでは、地域の方との前向きな交流を考えているが、ホームが立地する場所等もある難しい面もある。地域の役員の方との交流等、ホームからの継続した取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にて近況報告し理解をいただき、地域の方々にも活かせるよう努めている ・オレンジリングを取得したことで相談の輪も広がっている 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者がどのような生活を送っているのか現状を写真上映も含めて報告し、会議の内容について職員で検討しサービス向上に活かしている 	会議の際には、複数の地域の方の参加、協力が得られていることで、地域に関する情報交換の機会にもつながっている。また、活動状況を多くの写真で見ってもらうことで、出席者にホームへの理解を深めてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・不明な点や確認すべき点は市役所の窓口で相談している ・日頃から連絡を密にしている 	市の担当部署とは、法人関連の地域包括支援センターを含め、法人全体で情報交換が行われており、ホームの運営につなげている。また、管理者が介護保険の認定審査会の委員を務めていることで、介護保険施策への協力が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束はしていない ・夜間の勤務時間帯は外部からの侵入を防ぐ為(安全の為)施錠を行っている 	ホームは身体拘束を行わない方針を掲げており、ホームへの施錠等の対応を行わず、1階から2階への移動も自由に行われている。また、ホームで研修会の機会をつくっている他にも、日常的な注意喚起も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・認識については虐待が起きないように職員全員周知しているが、定期的に勉強会を行い防止に努めている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・施設として勉強会や話し合いは行っているが、成年後見制度は導入しているが現在の入居者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・入居前に入居者、家族と面談を行い十分な説明のもとで納得して頂いている ・入所が決定されたら、契約書、重要事項説明書にて再度説明を行い同意を交わして頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・入居者の意見は日々の生活の中で聞き取りを行い、家族からは面会時に意見を聞いている ・又、意見箱や苦情解決窓口を設置し第三者委員を設けている	家族とは行事を通じた交流が行われている他にも、運営推進会議を通じた意見交換も行われている。ホーム内に法人の第三者委員を明示する等、意見等の把握に取り組んでいる。また、毎月のホーム便りの発行が行われており、個別の報告も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・職員の全体会議やミーティングにて情報共有や報告事項を聞く機会を設けお互いの意見や提案を共有し、反映されている	毎月の合同の職員会議が行われている他にも、週1回、ユニット毎に職員間で意見交換の時間が設けられており、職員からの意見等が運営に反映されるように取り組んでいる。また、主任、施設長による個別面談の機会もつくりされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・年に2回自己評価を行い勤務評定を行っている ・上司が面接の機会を設け個々の努力を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・法人の研修や、外部の研修に参加する機会が多いため参加できており、毎月勉強会も実施している ・研修での内容は復命書にて閲覧できるため研修に参加出来ない職員にも対しても内容を伝える事ができている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・愛知県GH協議会に加盟しており、東尾張ブロック地区の会議に参加し情報交換をしサービス向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・本人が不安に思っている事を聞き出し、常に要望に耳を傾けている ・入所前には事前に得た生活歴等の詳細を把握しアセスメントを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居前に情報把握の為、ご家族の要望に耳を傾け信頼を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・ホームでの生活に慣れるまで不穏軽減、家族への協力も含め入居者の落ち着いた生活が出来るよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・日々の生活の中で、家事全般を入居者と一緒に行っており、できる事と出来ない事の個々の違いに対しては個々に支援させていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・入居者と家族が良好な関係が築けるよう、法人行事開催時には招待し参加させていただいている ・毎月生活記録やおたよりを発行し日々の様子を知って頂き、面会に繋げている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・家族や身内の関係が途切れないように面会いただけるように努めている ・以前から通っている美容院や病院にも家族の協力も得たうえで外出できるよう努めている	利用者により、入居前からの関係の方がホームに訪問する等の交流を継続している方がいる。理美容についてはホームの外へ出ていることで、行きつけの理美容の継続にもつながっている。また、家族とも法事等を通じた外出の機会も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・入居者が楽しく過ごして頂ける様、全体でのレクリエーションを行ったり定期的にイベントを開催し仲間意識を目指している ・入居者にとって不快な思いをさせないよう寄り添ってケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・契約終了後も必要に応じて相談や支援に努めている ・同法人内での利用に関しては行事等に関わりが継続出来るよう声掛けに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・入所当初は以前の生活環境に執着はあるが、ホームでの生活リズムに次第に馴染み溶け込んでいる ・日常生活の中で個々のニーズを把握し希望に応じて改善に努めている	ホームでは、常勤職員で利用者を担当しており、一人ひとりの把握につなげる取り組みが行われている。また、週1回、職員間でカンファレンスの時間がつくられており、利用者に関する日常的な思いや意向等の把握と職員間の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入所に至るまでの経過や生活歴を家族や他事業所から情報提供してもらいケース記録にて職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・毎日の血圧測定、検温、月1回の体重測定、定期健診にて把握に努めている ・ケアプラン、生活記録にて把握できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・入居者、家族の要望も聞き取りをしたうえで半年ごとにカンファレンスを行い他職種も含め意見交換している ・定期的なミーティングの実施にてケアの統一を図っている	介護計画の見直しを6か月で行っており、毎月のモニタリングを通じた変化の把握も行っている。家族に対しても専用の様式を活用しながら、希望等を反映できるように取り組んでいる。また、職員間でも日常的なチェック表を活用した取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・起床から就寝、夜間の様子や状況を記録している ・生活記録や申し送り等で情報を共有し今後の介護計画の見直し検討に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・本人や家族の状況に対応して、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・本人が心身の力を発揮しながら安全な暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・緊急時以外はそれぞれのかかりつけ医を優先している	現状、多くの利用者が今までのかかりつけ医を継続している。家族による受診支援が行われているが、状況によりホームでも支援している。また、ホームの看護職員による健康チェックの他、特養の看護職員による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・入居者の体調変化があったらすぐに他部署の看護師や協力機関に、かかりつけ医に連絡をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・個人情報保護のため病院からの情報を家族に伝えている為家族から情報を聞いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・重度化した場合は法人内の併設している特養入所が可能であるサポート体制の説明を行っている	利用者に合わせて法人全体で支援が行われていることで、ホーム単独での看取り支援は想定していない。家族とは、身体状態等の段階に合わせて、関連の特養等、次の生活場所への移行が話し合われ、ホームでも移行に合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・看護師の指導のもと心肺蘇生法や救急器具の使い方について実践等も含め勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・毎月避難訓練を実施し、年に1回職員での非常呼集を実施し職員の役割分担もしている ・定期的に消防署から講話や消火訓練もあり入居者、職員共に参加している	ホームでは、独自に毎月の避難訓練を実施しており、利用者にも日常的に意識してもらおう取り組みが行われている。法人全体の訓練の他にも、早朝の呼び出し訓練も行われている。また、特養に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホーム建物の構造上の制約もあり、夜間時の避難誘導に困難が伴うことが予測される。現状の毎月の避難訓練を継続しながら、職員間の必要な連携に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・常日頃朝礼やミーティング時に言葉遣いについて話をし意識づけをして丁寧な声掛けをしている ・人権を尊重しプライバシー保護に努めている 	職員による支援の基本である、7項目にわたる職員指針が示されており、利用者への配慮や自立支援につながるような取り組みが行われている。また、接遇面に関する、内部、外部の研修の機会をつくり、職員の振り返りも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の出来ない部分をカバーして、出来ることを引き出すように支援している ・決定できないような状況であれば促しを働きかけ本人の希望を聞きだしている 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、入浴、食材運びの時間はある程度決まっているがそれ以外はその日の状況に応じレクリエーションや作業、散歩等を行っている 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に家族の協力も含め美容院へ出かけている ・定期的に買い物にも出掛け、本人がおしゃれできるよう必要な物は本人が選び購入できる機会を設けている 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に出来る作業を把握しそれぞれ役割分担し入居者と一緒に楽しみながら食事の準備から片付けまで行っている 	調理の際には、利用者も出来ることに参加している他、毎日、利用者と特養まで食材を取りに出かけている。毎月のように様々な行事食の取り組みが行われており、利用者の楽しみにつながっている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・献立は特養の管理栄養士が立てたメニューを利用者と一緒に作り、摂取量や病状に合わせた個々の盛り付けも行っている 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の歯磨きの実施と入れ歯洗浄剤を使って口腔ケアを行っている ・入れ歯や歯の状況を見ながら必要性があれば歯医者受診や往診も行っている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・個々に排泄管理を行っており、パターンの把握や声掛けが必要であれば促している	利用者の身体状態等に合わせながら、利用者により細かな排泄記録を残しており、申し送りと合わせて職員間での排泄に関する情報の共有につなげている。また、日常的に運動を行う時間をつくっており、自然な排泄につなげる取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・水分摂取はいつでも飲める状態になっており、散歩と運動を兼ね食材運びに出掛けている ・水分補給と運動、毎日ヤクルトを飲む事で便秘予防もできている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	・毎日入浴ができる環境であり、入居者の状態と自己決定に合わせて入浴を実施している	入浴については、毎日の午後の時間に行っており、実際に利用者は毎日入浴している。大きな浴槽が設置されていることで、ゆったりと入浴している。また、柚子湯や菖蒲湯等の季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・いつでも居室で快適に過ごしていただけるようエアコンを完備し、空調管理を行っている ・個別に就寝前の眠剤も医師の判断のもと服用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・お薬の説明書をお預かりし、個々の薬の袋に用法、副作用、用量を掲載し薬について理解し、随時症状の変化確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・1人1人の生活歴を把握し、食事作り、畑仕事、散歩、塗り絵、工作など個々のレベルに合わせて役割を活かせるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	・買物や喫茶店へ定期的に外出しており、年2回入居者の希望に沿って行楽外出も実施している ・家族とも自由に外出していただいている	ホームでは、利用者が毎日外出するよう取り組んでおり、毎日2回、離れた場所にある特養まで食材を取りに出かけている。また、季節に合わせた外出行事が行われており、花見や初詣をはじめ、市外の公園等への外出が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・お金を所持することにより盗難疑惑や妄想への発展に繋がる事を回避する為、ご家族より預かり事務所に管理させて頂いている ・外出時には入居者に金銭をお渡しし見守りのもとお支払いをしていただく		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・入居者から希望があればいつでも対応できるようにになっている ・電話の希望があれば随時ご家族に電話できる環境となっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・毎日の掃除で居心地の良い環境作りにつとめている ・食堂や廊下には季節に合った入居者の作品を掲示したり、玄関先には季節の植物を置き明るい雰囲気作りに努めている	各ユニットが独立した建物でもあるためユニット毎に環境づくりが行われているが、家庭的な雰囲気であることは共通している。また、リビングや通路の壁には、季節に合わせた飾り付けが行われたり、利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・リビングには自席やソファがあり自由に行き来もできゆったりくつろげる場となっている ・食堂には随時お茶を準備しているためお茶を飲みながら皆でテレビを見たり楽しめる環境である		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入居者が過ごしやすい環境作りに努めており使い慣れている家具などお持ちいただいている ・家具の引き出しには衣類の名称をラベルに記入しわかりやすく使用いただけるよう工夫している	居室の入り口から部屋の間には区切りがあることで、利用者のプライバシーに配慮された居室になっている。その上で、利用者の意向にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われている。また、居室毎にベランダが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・エレベーターの設置にて無理のない生活を送って頂いている ・ホーム内全体のトイレ等の表示や日課を掲示し自立した生活が送れるよう支援している		